

カキ生育情報

千葉県
平成25年12月号

1年間の気象

平成24年12月から平成25年11月までの月別気象は、表1に示した。月平均気温は、平成25年3月、4月、6月～10月で平年を上回った。この1年間の平均気温は、15.7℃で平年より0.2℃、前年より0.4℃高かった。降水量は平成25年1月、3月、5月～9月、11月で平年を下回り、この1年間の合計は1,865mmで平年の93%、前年の94%であった。日照時間は、平成25年3月～5月、7月～9月、11月で平年を上回り、この1年間の合計は2,107時間で平年の108%、前年の104%であった。

表1 平成24年12月～平成25年11月の気象 (暖地園芸研究所)

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H24	12	7.4	8.5	7.1	148	87	153	164	166	160
H25	1	5.0	5.9	4.4	75	91	54	156	169	114
	2	5.7	6.3	5.2	147	92	161	133	151	122
	3	11.8	9.1	9.1	69	182	200	189	154	156
	4	14.3	13.8	13.4	225	170	210	202	166	171
	5	17.7	17.8	18.1	109	176	168	220	186	211
	6	20.8	20.7	19.7	243	245	196	111	135	125
	7	24.6	24.3	24.3	57	188	104	188	175	198
	8	26.9	25.9	26.6	32	143	14	254	220	257
	9	23.2	22.9	24.2	186	240	197	187	146	188
	10	19.0	17.9	18.3	455	253	301	130	137	165
	11	12.5	13.3	12.7	119	147	229	173	144	156
平均/計		15.7	15.5	15.3	1,865	2,014	1,987	2,107	1,949	2,023

平年：1968～2012年の平均

本年度産果実の特徴

本年産のカキの生育状況を振り返ると、3月、4月の気温が高かったため、発芽期及び開花期は、平年より早かった。春先の強風により新梢の枝折れや葉の傷害が目立った。本年は成り年で着果量は、平年よりやや多かった。梅雨明けは7月6日で平年より15日早かった。夏期の気温が高く、初夏から初秋にかけて降水量が少なかったため、果実の肥大は遅れ、収穫果も小さかった。生理落果は平年並みで、炭疽病の発生が多く、カメムシ類の発生は少なかった。

収穫期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所(以下暖地園研)における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「西村早生」が9月17日、10月3日、21日、「松本早生富有」が10月7日、15日、11月5日、「富有」が10月15日、23日、11月11日であった。「西村早生」を除いて、平年より2～19日早かった。本年の収穫は、「松本早生富有」及び「富有」が平年より早く始まり、早く終了した。

市原市の「松本早生富有」の収穫始期、盛期及び終期は、それぞれ10月5日、23日、11月6日で、収穫盛期以外は暖地園研とほぼ同時期であった。

表2 収穫期 (暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	9.17	9.18	9.19	10.3	9.29	9.28	10.21	10.7	10.9
松本早生富有	10.7	10.13	10.9	10.15	10.25	10.17	11.5	11.7	10.30
富 有	10.15	10.26	10.15	10.23	11.11	10.26	11.11	11.20	11.14

平年：1997年～2012年の平均

果実の品質

収穫果実の大きさ、糖度、へたすき及び汚損果程度は表3に示した。1果平均重は、「西村早生」が2地区の平均でみると193g、「松本早生富有」が220g、「富有」は202gであった。いずれの品種も平年より3～22%程度下回った。

糖度は、「西村早生」が2地区の平均でみると14.7度、「松本早生富有」が16.3度、「富有」は16.9度であった。いずれの品種も平年よりそれぞれ0.1、1.5、1.7度高かった。

へたすきの発生は、「西村早生」が前年よりやや少なかったが、「松本早生富有」及び「富有」は前年と同程度であった。

汚損果程度は、いずれの品種も前年と同程度であった。

病害虫の発生

暖地園研では、炭疽病の発生が平年より多く見られ、樹上軟化する果実も多かった。

いすみ市では、病害の発生は見られなかったが、スジ果の発生が非常に多かった。

市原市では、台風による傷果が多く見られ、着色が平年より遅れた。また、特に多く発生した病害虫はなかった。

表3 果実の大きさ及び品質

品 種	調 査 地	1果平均重(g)			糖度計示度(Brix)			へたすき		汚損果程度	
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	前年	本年	前年
西村早生	いすみ市	192	199	—	14.7	14.4	—	—	—	—	—
	暖地園研	193	200	196	14.7	14.7	15.3	微	少	少	少
	平 均	193	200	—	14.7	14.6	—	—	—	—	—
松本早生富有	市原市	—	228	191	—	15.6	17.9	—	微	—	中
	暖地園研	220	247	243	16.3	14.8	16.0	少	少	少	少
	平 均	—	238	217	—	15.2	17.0	—	—	—	—
富 有	暖地園研	202	259	209	16.9	15.2	15.0	微	微	少	少

平年：暖地園研は1990年～2012年の平均、いすみ市及び市原市は1998年～2012年の平均

12～5月の作業

整枝・せん定

12～2月が適期である整枝、せん定に当たっては、結果母枝の充実度を確認した上で、結果過多にならないように留意し、間引きせん定中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝は全て取り除き、病害虫多発園では密集した枝を風通しの良くなるように適宜間引く。

摘 蕾

開花10日前～開花直前(5月上中旬頃)に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果及び高品質果生産と隔年結果防止のために行うので、せん定の一部と考える。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度に行わないようにする。着蕾量が多い場合は、葉数5枚以上の結果枝に枝の元から2～3番果のへたの大きい蕾を1蕾(1結果枝当たり)残すようにする。

病害虫防除

病害虫の越冬源を絶つために、落葉の処分と粗皮削りを徹底して行う。うどんこ病、落葉病、黒星病の予防は、発芽前の3月中下旬が防除適期である。また、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月までが防除適期となる。展葉期の4月下旬は、うどんこ病、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>